

## 令和元年度 Cherish の会 第2回研修会報告

安城更生病院 吉田 なお子  
名古屋市立西部医療センター 片岡 咲貴

2019年12月21日（土）14：00より名古屋市立大学病院 大ホールにて Cherish の会研修会を開催いたしました。今回は「働き方改革 どうしていますか？どうしたいですか？」というテーマで43名（内：非会員3名）ご参加いただきました。

今回は事前に県内の各施設にお願いし職場環境・ワークライフバランスに関してアンケートを取らせていただきました。そのため研修会の前半ではアンケート結果について、施設用、男性用、女性用、男女比較と項目を分け報告を行いました。

アンケートに回答して頂いた年齢区分として男性は50歳以上がやや多く、女性は20歳代から30歳代が7割を占める結果となりました。この結果から女性技師の多くは若い層ということが見えてきました。また、ワークライフバランスの結果では男女ともに“現在の生活で仕事の占める割合”を61～80%と回答された方が比較的多く見えましたが、“5年後の仕事の占める割合”では41～60%と回答された方が多くなりました。働き方改革などの影響もあり、仕事の占める割合を減らしたいという希望が感じられる結果となりました。その他にも、ハラスメントや妊娠中の女性の働き方など、様々なアンケート結果の報告があり、今後の働き方を考える良い機会となりました。

結果報告の後にはグループに分かれ、アンケート結果で気になったことなどをグループで話し合う時間を設け、各施設で気になっていることや施設の現状などディスカッションを行いました。

参加者からは、産育休や急な休暇で人手が不足した場合は多職種に応援を願っている、女性技師の中でも若い技師は制度を知らないなので、説明会や周知会などがあると良いなどの意見が出ていました。また社会的に技師派遣のようなネットワークが作られると良いのではないかと聞いた意見も聞かれました。



研修会の後半では、名古屋大学男女共同参画センター准教授の三枝麻由美先生をお招きして『働き方改革を進めるために、何をすべきか?』をテーマに講演していただきました。

はじめに、日本が諸外国に比べ『ジェンダーギャップ指数』と呼ばれる女性の社会進出の割合を示す指数が非常に低く、特に政治・経済・教育分野での女性活躍が顕著に低いというお話がありました。男女共同参画を推進するための法整備は進められているものの、海外に比べれば遅れているのが現状のようです。

子育て中の女性には重要な仕事を任せられない、という考えから活躍の機会を失ってしまい、仕事への取り組み意欲が下がってしまう女性が多い日本の現状に対して、子育てを社会全体の問題として捉え、子育てを組織のメリットにする発想の転換が重要であると説明していただきました。

また、名古屋大学をはじめとした各地の大学で、男女共同参画推進のために実際に行われているアクションプランの紹介もしていただきました。平日就業時間外における会議の原則禁止や、学内保育所及び学童保育所の導入により女性離職者の減少に繋げるような取り組みを行っているほか、男性育児休暇の義務化、在宅勤務の導入が行われている事例もありました。性別分類の無いトイレの設置や身分証の氏名変更が可能など、LGBT への配慮も広がっているそうです。

仕事は男性だけのものではないのはもちろん、育児も女性だけのものではありません。『機会の均等』から『結果の平等』主義への社会変容が求められている、という先生のお話に、参加者も熱心に聞き入っていました。

最後に、会場全体で今回のテーマ全体についてディスカッションを行いました。アンケート結果で気になったデータについて、施設で困っていること、今後どうしていけばいいか等、三枝先生も交えて様々な意見が出されました。

特に出産後の女性の働き方に関しては、時短勤務や休暇について制度自体の拡充の必要性を求める声が挙げられる一方で、家庭と仕事の両立に対する考え方について職種を越えた情報共有を行っている施設もありました。時短勤務中の女性にも周囲のスタッフと協力しながら重要な仕事を任せることで、仕事への取り組み意欲向上につなげていけるのではないかと具体的な提案もあり、参加者にとって有意義な時間になったことと思います。

